

ディマンドサイドマネジメント

技術概要

ディマンドサイドマネジメント(DSM: Demand - Side Managemet)とは、電力等のエネルギー需要家への働きかけを通じて需要量をコントロールすることにより、効率的で望ましい需給関係を形成しようとするもの。アメリカの電気産業において1980年代の後半より本格的に始まったDSMは、最近ではガス、水道、交通といった他の事業分野にも、また他の国々にも波及しつつある。

新都市での導入効果について

新都市のオフィスや住宅内にある電気機器を直接遠隔制御することなどによって電力需要のピークカットを行うとともに、機器の効果をより発揮するために需要と供給の関係を適正にコントロールすることにより省エネ効果が期待できる。

導入における課題(対応策)

人間の操作によるミスや無駄をなくすことを目的にしており、常に最適な運転を行うので、適切に利用すれば効果が発揮できる。しかし、コントロールの設定がまずいと効果を発揮できないため、利用実態を把握し、適正な設定に修正することなど管理を的確に行うことが課題。

IT等を活用し、需要を正確に把握できるシステムを構築する。

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成